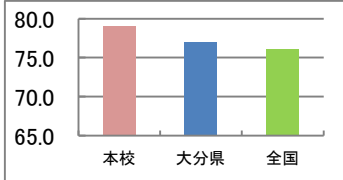


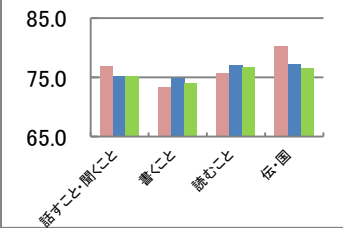
大分市立碩田学園 9年生 国語  
平成30年度 全国学力・学習状況調査

【国語A:主として「知識」に関する問題】

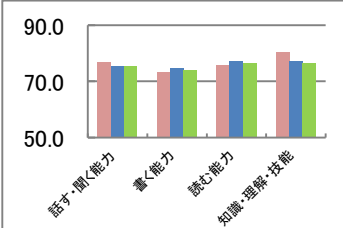
正答率	本校	大分県	全国
国語A	79	77	76.1



領域別正答率	本校	大分県	全国
話すこと・聞くこと	76.8	75.2	75.2
書くこと	73.3	74.8	73.9
読むこと	75.7	77.1	76.7
伝・国	80.3	77.2	76.5

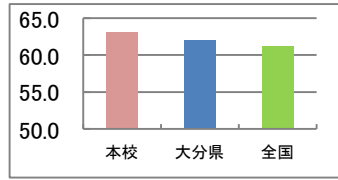


観点別正答率	本校	大分県	全国
話す・聞く能力	76.8	75.2	75.2
書く能力	73.3	74.8	73.9
読む能力	75.7	77.1	76.7
知識・理解・技能	80.3	77.2	76.5

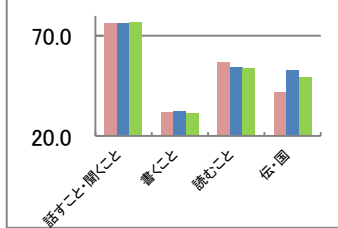


【国語B:主として「活用」に関する問題】

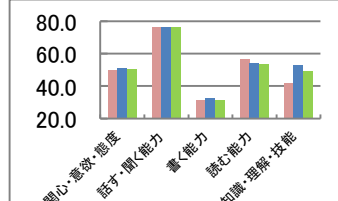
正答率	本校	大分県	全国
国語B	63	62	61.2



領域別正答率	本校	大分県	全国
話すこと・聞くこと	76.2	76.3	76.6
書くこと	31.4	32.4	31.3
読むこと	56.7	54.1	53.5
伝・国	41.9	52.7	49.2



観点別正答率	本校	大分県	全国
関心・意欲・態度	49.8	51.1	50.3
話す・聞く能力	76.2	76.3	76.6
書く能力	31.4	32.4	31.3
読む能力	56.7	54.1	53.5
知識・理解・技能	41.9	52.7	49.2



【分析結果】

- ・A問題(知識)、B問題(活用)とも、県・全国平均正答率を上回っている。
- ・領域ごとに見ると、A問題(知識)では「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の2観点で全国平均正答率を上回っている。
- ・B問題(活用)では「書くこと」「読むこと」が全国平均正答率を上回っている。
- ・A問題(知識)では「言葉を説明したもものとして適切なものを選択する」や「本文の第六段落の説明として適切なものを選択する」ことに、B問題(活用)では「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く」ことに課題が見られた。

【改善方法】

《言語についての知識・理解・技能の習得》

- ・漢字については、漢字テストや補助教材等で反復練習を行う。書く活動をさらに増やし、例文の中で使える漢字を練習するなど、やり方を工夫して取り組ませたい。

《読むことの指導》

- ・問題文を読む時間が足りなくなる生徒が多いので、早く正確に読む練習をさせたい。その際、語句の意味を正しくとらえたうえで内容把握が大切であることを指導する。また、社説などの読み取りや文章構成をとらえる活動などの取り組みを充実する。簡単に読解力はつきにくい根気強く取り組むことで、読む力を高めたい。

《話す・聞くことの指導》

- ・話し方の基本はおおむね習得しているが、内容を深めたり豊かに表現できるように高めたい。日々の発表の中で、質問を想定しながら相手の話を聞くようにしたり、時間や場の条件に合わせてスピーチをし、それを聞いて自分の表現の参考にしたりさせながら力をつけさせていきたい。
- ・毎時間の授業の中で、ペア学習や班学習を取り入れながら「話す」「聞く」機会を多くしているところである。一人一人が「何を」「どう伝えるのか」を細かく指示するとともに、司会の生徒には、テーマに沿って進め、話し合いが深まるよう配慮する。

《書くことの指導》

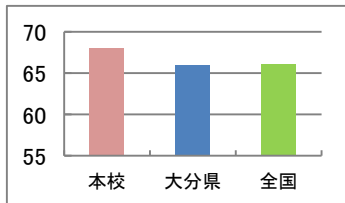
- ・自分の考えを述べる作文などについては書くことができるが、文章を読み取り、読み取った内容について書くことに課題が見られる。文章の読み取りで、キーワードを見つけ、構成を考えながら学習を積み重ねることで、簡潔で正確な文を書く力につなげていきたいと考える。

※全国及び県の平均正答率は、文部科学省が公表した数値を記載  
 ※領域別正答率の「伝・国」は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」  
 ※観点別正答率の「知識・理解・技能」は、「言語についての知識・理解・技能」

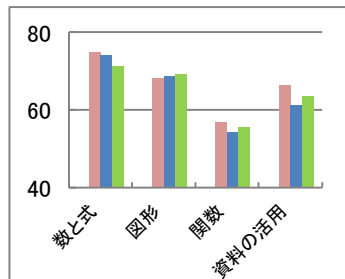
大分市立碩田学園 9年生 数学  
平成30年度 全国学力・学習状況調査

【数学A:主として「知識」に関する問題】

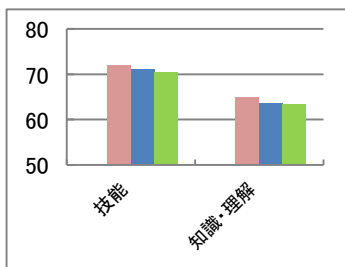
正答率	本校	大分県	全国
数学A	68.0	66.0	66.1



領域別正答率	本校	大分県	全国
数と式	74.8	74.0	71.1
図形	68.2	68.5	69.1
関数	56.9	54.2	55.5
資料の活用	66.2	61.3	63.5

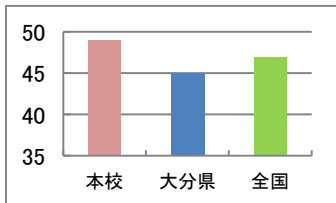


観点別正答率	本校	大分県	全国
技能	72.0	70.9	70.4
知識・理解	64.9	63.5	63.3

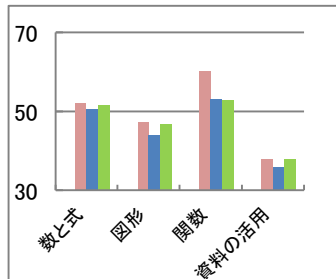


【数学B:主として「活用」に関する問題】

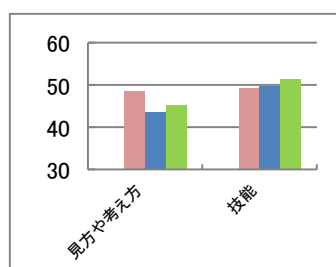
正答率	本校	大分県	全国
数学B	49.0	45.0	46.9



領域別正答率	本校	大分県	全国
数と式	52.1	50.4	51.4
図形	47.3	43.8	46.7
関数	60.3	53.0	52.8
資料の活用	37.9	35.7	38.0



観点別正答率	本校	大分県	全国
見方や考え方	48.6	43.6	45.1
技能	49.3	49.6	51.3



【分析結果】

- ・A問題(知識)・B問題(活用)ともに、全国平均正答率を上回っている。
- ・A問題(知識)の領域別正答率では、「図形」領域において、県平均・全国平均正答率をやや下回っている。
- ・B問題(活用)の領域別正答率では、すべての領域において全国平均正答率を上回っている。
- ・領域別に分析すると、「図形」の領域では、「条件を満たすために折った線の作図」と「回転移動した図形を選ぶこと」に課題が見られた。「資料の活用」の領域では、「樹形図を書いて確率を求めること」に課題が見られた。
- ・図形分野においては、選択式の問題でも誤答が見られ、作図の方法や意味、図形の性質への理解の定着に課題が見られた。

【改善方法】

《学習の振り返りと復習の仕方の工夫》

- ・授業の目標に対して、どのようなことができるようになったのかを振り返り、その力が定着するように家庭学習につなげていく。
- ・知識・理解の定着を図るため、年間を見通した学習計画に基づき、計画的な復習に取り組めるようにする。
- ・学習内容に合わせた確認テストを、授業の最初に実施することで、前時とのつながりを意識した継続的な学習を行う。
- ・生活の中にある身近な題材をもとにした課題を設定する。課題解決に向け自分の考えを記述して相手に伝える機会を増やす。
- ・理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導のさらなる充実を図る。

【数と式】

- 等式の性質を利用して機械的に処理する技能を高める。
- ・文章から式へ、式から文章へのスキルを高めていく。

【図形】

- それぞれの図形における性質を整理し、それらを活用する能力を高める。
- ・定理や定義をしっかりと整理し、道筋を立てて説明する活動を充実する。

【関数】

- 関数を、表・グラフ・式に関連づけて考え、判断する能力を向上させる。
- ・それぞれの関数の式の特徴を明確にして、式を求めるための条件を適切に処理する練習を繰り返す。

【資料と活用】

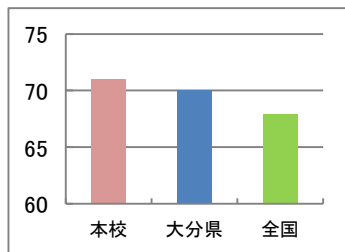
- 表やグラフから必要な情報を取り出し、それを活用し、問題を解決する能力を高める。
- ・度数分布表や代表値などを利用し、資料の特徴をつかむ学習を繰り返す。

※全国及び県の平均正答率は、文部科学省が公表した数値を記載  
※観点別正答率の「技能」は、「数学的な技能」、「知識・理解」は「数量や図形などについての知識・理解」

大分市立碩田学園 9年生 理科  
平成30年度 全国学力・学習状況調査

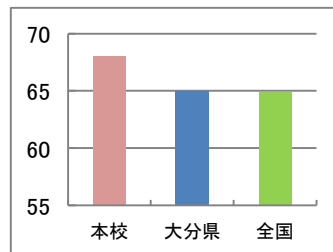
【理科：主として「知識」に関する問題】

正答率	本校	大分県	全国
主として「知識」	71.0	70.0	67.9



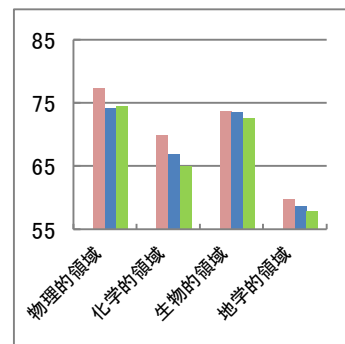
【理科：主として「活用」に関する問題】

正答率	本校	大分県	全国
主として「活用」	68.0	65.0	64.9



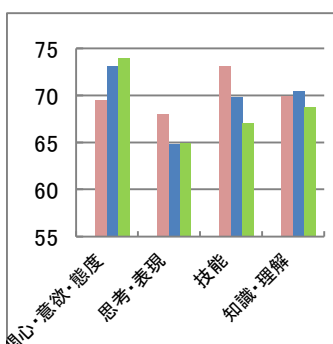
【理科：学習指導要領の分野別での正答率】

領域別正答率	本校	大分県	全国
物理的領域	77.3	74.1	74.4
化学的領域	69.8	66.8	65.0
生物的領域	73.7	73.5	72.5
地学的領域	59.7	58.6	57.8



【理科：評価の観点別での正答率】

観点別正答率	本校	大分県	全国
関心・意欲・態度	69.5	73.1	74.0
思考・表現	68.0	64.8	64.9
技能	73.1	69.8	67.0
知識・理解	69.9	70.4	68.7



【分析結果】

- ・A問題(知識)・B問題(活用)ともに、全国平均正答率を上回っている。
- ・領域別正答率では、すべての領域において全国平均正答率を上回っている。2分野(生物・地学)に比べ、1分野(物理・化学)の領域における正答率が特に高くなっている。
- ・化学的領域では、化学変化を粒子モデルで表す設問の正答率が特に高かった。
- ・生物的領域、地学的領域における知識に関する問題で、理解が十分ではない項目があった。
- ・観点別正答率の結果より、実験や観察の「技能」に関する設問への正答率は高かった。「関心・意欲・態度」に関する正答率では全国平均を下回った。
- ・記述問題への無解答率が、全国平均より高かった。

【改善方法】

《学習の振り返りと探求活動を大切に授業の工夫》

- ・授業の「めあて(目標)」に対して、どのようなことができるようになったかの「振り返り」を1時間の授業の中で行い、基礎・基本の定着を図る。
- ・特に、「知識・理解」の定着を図るため、1時間の授業のまとめとして重要事項の「振り返り」を行うとともに、定期的に小テスト・確認テストを実施していく。
- ・日頃の授業の中で、身近な自然現象についての興味を高めさせる工夫をしていくとともに、探究活動において新たな疑問をもち問題を解決していく学習の過程を大切にしていけることを通して、「関心・意欲・態度」の向上を図る。
- ・個に応じた指導のさらなる充実を図る。

【物理領域】

- 基礎的な法則を身に付けさせる探究活動の後、法則を活用して推論させる活動を設定する。
- ・基礎的な法則を活用して思考する必要がある自然事象について扱っていく。

【化学領域】

- 実験や観察の技能を定着させるとともに、身近な自然現象について思考させる活動を設定する。
- ・身近な自然事象に対して、疑問をもたせ興味を高めさせる学習課題を扱っていく。

【生物領域】

- 「知識・技能」の定着を図るため、「めあて」と「振り返り」を意識した学習の流れを大切にす。
- ・「知識」に関しては、表や図で工夫してまとめる取り組みを行い、定着を図る。
- ・「技能」に関しては、実験の条件設定を工夫させ、結果を推論してから実験を行うようにすることで、主体的に取り組めるようにする。

【地学領域】

- できるだけ実物に触れる機会を作り、実感が伴った理解が得られるように工夫する。
- ・気象や天体などの学習では、ICTを積極的に活用し、画像や映像を用いて視覚的に理解できるように工夫していく。

※全国及び県の平均正答率は、文部科学省が公表した数値を記載

※観点別正答率の「思考・表現」は、「科学的な思考・表現」、「技能」は、「観察・実験の技能」、  
「知識・理解」は「自然事象についての知識・理解」